

平成元年度現代宗教研究所事業報告

1、教化研究会議

(1) 第二十二回中央教化研究会議

期 日 平成元年九月五日（火）・六日（水）

会 場 池上本門寺・朗峰会館

宿 泊 朗峰会館

開催趣旨

① 中央教化研究会議は、広く法華経教化について
論議し、具体的方策を樹立することを目的に開
催されます。

② 中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委
員を中心として、管区内での教化活動の現状を
話し合い、総弘通運動推進に係わる諸問題を検
討致します。

③ 各部会での討議を通して、教学の現代化、教育
問題、青少年教化等に取り組み、問題の把握、
解決、教材資料の作成をめざします。

④ 論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての
意識を昂めます。

統一テーマ

社会にいかすお題目総弘通運動

——みなおそう運動の実態——

会議形式

(1) 全体会議

記念講演「日本人の宗教意識」

横山滋（NHK放送文化調査研究所世論調査部）

(2) 分科会まとめシンポジウム

分科会及びテーマ

第一分科会（教学部会）

「教化学の確立にむけて」

第二分科会（寺檀部会）

「信行会活動の活性化をはばむものは何か」

——檀家制度と講組織等を考える——

第三分科会（法器養成部会）

「社会にいきる教師養成」

第四分科会（世代別教化部会）

「青少年教化の組織化とその展開」

第五分科会（教化伝道ネットワーク部会）

「ネットワークづくりの一つの試み」

第六分科会（社会問題部会）

「医療と日蓮聖人の教え」

第七分科会（立正平和部会）

「立正安国の精神とお題目総弘通運動」

「環境汚染と原発問題」

開催方式

①部会制、設問方式を採用する。

②告示と同時に別紙にて各部会毎に二〜四項目の問題を設定する。

③出席者は一部会を選び、その設問（必ず一つ以上）について意見を事前に、教務部継由現宗研に提出する。

④提出された意見は、中央教研運営委員会にてと

りまとめ、開催当日はこれをもとに各部会毎に更に討議を加えてもらい、全体会にてそのまとめを報告する。

⑤中央教化研究会議においてまとめられたものは、教区の教研会議の資料や、今後の教化のハンドブックとして役立てられるよう、小冊子として刊行する。

日程

第一日目 九月五日（火）

受付 九時〜九時三十分（朗峰会館一階）

開会式 九時三十分〜十時三十分（本殿）

全体会議 十時三十分〜十二時三十分（朗峰会館四階）

館四階）

昼食 十二時三十分〜十三時（指定会場）

分科会 十三時〜十八時（指定会場）

懇親会 十八時〜二十時（朗峰会館四階）

第二日目 九月六日（水）

起床・朝勤 四時三十分（大堂）

朝食 七時三十分（朗峰会館四階）

分科会 八時三十分～十時（指定会場）

全体会議 十時～十二時三十分（朗峰会館四階）

階）

教区別懇談会 十二時三十分～十三時三十分（指定

会場）

誓願唱題行 十三時三十分～十四時（本殿）

閉会式 十四時～十四時三十分（本殿）

参加者

宗務所長より推挙委嘱された運営委員（管区二名）、若干の希望者。

(2) 教区教化研究会議開催

十教区にて開催した。開催日時・テーマは次の通りである。

(イ) 第六回千葉県教化研究会議

四月十九日 千葉市ロイヤルプラザホテルにて開催

催

テーマ「いのり」

——いのりを取り扱う教化上の

諸問題——

(ロ) 第十三回中四国教区教化研究会議

六月七・八日 徳島市阿波観光ホテルにて開催

テーマ「お題目総弘通と信行会活動の新しい展開

をめざして」

——若い信徒の育成とおしえのわかりや

すい解釈——

(ハ) 第十一回九州教区教化研究会議

六月十三・十四日 宮崎市ホテル神田橋にて開催

テーマ「信行会活動」

(ニ) 第三回北関東教化研究会議

六月十九日 大宮市産業文化センターにて開催

テーマ「教研会議の充実と今後の方向」

——管区教化センター設置を

めざして——

(ホ) 第十九回近畿教区教化研究会議

七月五日 高石市グランドホテル新東洋にて開催

テーマ「お題目総弘通運動を推進しよう」

——お題目の意義と功德をふまえて——

(ヘ) 第十三回北海道教区教化研究会議

八月二十四日 小樽市妙龍寺にて開催

テーマ「一般人の宗教意識について」

(ト)第十五回京浜教区教化研究会議

十一月九日 平塚市平塚プレジールにて開催

テーマ「家庭に生かすお題目」

(チ)第六回北陸教区教化研究会議

十一月二十一日 柏崎市ホテル登久満にて開催

テーマ 今 お題目総弘通運動を展開する中にお

いて

「語ろう お題目の輪を広げるための教

化の方策と組織化について」

(リ)第八回東北教区教化研究会議

十一月二十七・二十八日 福島市福島グリーンパ

レスにて開催

テーマ「お題目総弘通運動の発展を求めて」

(ヌ)第十四回山静教区教化研究会議

平成二年二月二十一日 下部町下部ホテルにて開

催

テーマ「新時代に向けての寺院のありかた」

——みなおそう教師の立場——

(ル)第十三回中部教区教化研究会議

平成二年三月十三日 岡崎市レクワールド岡崎に

て開催

テーマ「見直そうお題目総弘通運動」

——私達はこう考える——

(ヲ)第七回千葉県教化研究会議

平成二年三月十五日 東金市八鶴館にて開催

テーマ「教化活動の諸問題について考える」

——今、研究・交流・実動の場は——

2、研究・調査活動

(1)新宗教研究・寺院調査・お題目総弘通研究の各プロ

ジェクトにおいて、各課題のもとに調査・研究を進

めた。

(イ)新宗教研究プロジェクト(片野博義・山口裕光・

植田観樹・西片元證・白部哲應・勝呂昌信各研究

員)

前年度の作業に引き続き、新宗教についてのハ
ンドブック作成のため、各教団の沿革・教義・組

織・布教体系・活動・本宗との相違等について各担当ごとにまとめた。さらに、新宗教教団の社会的背景・歴史的背景を把握しながら総括をし、わかりやすい啓蒙書としてまとめ、発行のための作業を行なった。

(ロ)寺院調査プロジェクト(渡部公谷・蓮見高純・鈴木浄元・望月兼雄・常岡裕道・高橋謙祐各研究員)

現宗研が年来進めてきた過疎地域寺院調査に関して、より理解しやすく活用し得る内容にし、あらたなデータをも所収して「ここまで来ている過疎地寺院―あなたは知っていますか?」のタイトルで発行配布し、その活用について検討した。今年度より都市部・人口過密地域における未開教地区・無寺院地区の宗教事情と宗教活動、また都市部の寺院が抱えている墓地問題や檀信徒教化に関する諸問題等について調査・研究していくために、問題の所在と調査・研究方法等についての準備を行なった。

(ハ)お題目総弘通運動研究プロジェクト(古河良皓・大島啓禎・伊藤立教・田島辨正各研究員・嶋田堯嗣前研究員)

本宗における過去の宗門運動の総括に引き続いて、今年度は他教団の宗門運動について調査・研究を行なった。他教団の中から、真宗大谷派の同朋会運動についての資料を収集し検討のうえ、運動本部に訪れて運動の概要と現状について話をうかがい、まとめる作業を行なった。また、浄土真宗本願寺派の基幹運動と本門仏立宗の宗門運動についての資料を収集し、訪問調査のための準備を行なった。

(2)研究講座・教化学研究集会を開催した。

(イ)平成元年三月三日、第十二回教化学研究集会を大阪市雲雷寺にて開いた。

研究講座

「人権問題について」

研究発表

長谷川正徳(現宗研顧問)
人権問題対策会議員

「矯正施設に於ける教化活動」

大島鳳淳（奈良県）

「浄光院文書（行僧列名帳）」と遠寿院文書（行

僧人名簿）について」 横田英学（和歌山県）

(ロ) 五月十一日、第十三回化学研究集会を日蓮宗
宗務院にて開いた。

研究発表

「宗教教誨の現状」

秋永智徳（現宗研顧問）

「僧風教育について」

浜島典彦（熊谷学寮寮監）

(3) 研究セミナー・研究懇話会・座談会の開催

(イ) 平成二年一月十七日、前回（昭和六十三年一月
二十一日）にひきつづき、日蓮宗を中心に教団の
現状と未来のあり方について、研究の交流と懇談
を図るために、「教団研究懇話会」を開催した。

今回は、テーマ「教団論——宗門僧侶の現状と僧
侶教育のあり方を中心に——」のもと、僧侶の実
態、教育機関の現実と生涯教育・僧風教育のあり
方について、駒沢大学講師・曹洞宗教化研修所講

師兼主事 中野東禪師を講師に、「僧侶の生涯教育
と子弟教育」を研修し、現状分析と問題提示、解
決策等について意見を交換した。

(4) 研究例会

(イ) 平成元年三月二十九日、研究員を対象に天皇崩
御をめぐる諸問題について、現宗研顧問の中濃教
篤師より「天皇問題について」と題して、講演を
いただき研究討議を行なった。

(ロ) 浄土真宗本願寺派伝道院研究部会の共同研究報
告「わが宗門と習俗・俗信」をベースに伝道院副
講師佐々木正典師が曹洞宗教化研修所で行なった
特別講義の講義録に加筆した『ポスト・モダン
教学』への私見（中外日報掲載）を参考資料と
して取りあげ、本宗の現況と何故いま第三次宗教
ブームなのか等を分析し、かつ二十一世紀に向け
ての本宗の進むべき方向・あり方等について討議
した。

(ハ) 日蓮教学の現代化とそのあり方を再検討する一
環として、『新日蓮教学概論』を各章ごとに研究

員で担当し、学ぶべき点と問題点をレポートし、相互に研究・討議した。

3、出版・資料収集

(1) 「現代宗教研究」第二十四号を編集し、全寺院に配布した。

(2) 従来継続してきた「過疎地寺院実態調査」を読みやすい形に編集し、あらたなデータをも所収して、「ここまで来ている過疎地寺院―あなたは知っているますか?」と題して、全寺院に配布した。

(3) 教化資料として、現宗研顧問中濃教篤述「創価学会の内部矛盾」を作成し、配布した。

(4) 教団史研究資料の一つとして、各種資料より「昭和六十三年度日蓮宗年表」を作成し、配布した。

(5) 新宗教関係資料を収集し、保管した。

(6) 各種伝道教化に関する資料を収集し、保管した。

(7) 伝道・教化・研究に必要な図書を購入した。

(8) 現宗研所蔵図書のコンピューター管理を旨指して、蔵書の整理とデータ作成を行なった。

(9) 総合企画部の委嘱により、「昭和六十三年度宗勢調

査報告書」をまとめ、編集・作成した。

4、研究交流・会議

(1) 中央教研の決議に沿って、日蓮宗教化センター設置を推進し、各地域教化センター間の連絡会議を開き、意見・関係資料を交換し、お互いの機能の充実を進めた。

(2) 現宗研が主催となり、平成二年二月六日に「各宗教関係研究機関連絡協議会」を朗峰会館で開催し、テーマ「過疎地寺院問題を考える」のもと、各研究所より各宗団の過疎地寺院の現状と問題点、並びに対応策等についての報告・問題提起をして頂き、将来への展望などについて意見交換をした。また、各研究所発行の関係資料を交換して研究交流を深めた。

(3) 顧問会議・嘱託会議・研究員会議を開き、研究所並びに研究の在り方等について討議をし、内容の充実に努めた。

(4) 教区・管区主催の各種研究会議・研修会などに出席した。